

◆ 今週のコメント

- ・ 細菌性赤痢(フレキシネル(B群))の報告が1例(女性, 10歳代)あります。症状は下痢です。推定感染地域は国外(インド)で, 推定感染経路は経口感染です。本年初めての報告となっています。感染症法に基づく届出の対象となった平成11年(4月)以降, 本市の累積報告数は本例を含め, 117例となっています。推定感染地域は東南アジア諸国を中心に国外 104例, 国内 8例, 不明 5例となっています。発展途上国での感染者が多く, これらの地域で非加熱食品は飲食しないよう注意して下さい。
- ・ 腸チフスの報告が1例(男性, 20歳代)あります。症状は高熱, 比較的徐脈, バラ疹, 下痢です。推定感染地域は国外(インド)で, 推定感染経路は経口感染です。本年の累積報告数は2例となっています。細菌性赤痢と同様の注意が必要です。

◆ 今週のトピックス: <RSウイルス感染症>

RSウイルス感染症の定点当たり報告数は1.00(41例)で, 先週と比べて1.3倍増加し, 過去5年平均値を上回っています。詳細をトピックスに掲載しています。

◆ 発生状況

全数把握の感染症

- ・ 二類:結核 6例(肺結核 3例, その他結核 1例, 潜在性結核感染者 2例)うち喀痰塗抹陽性 1例
【1月以降の累積報告数 331例(肺結核 173例, その他結核 77例, 潜在性結核感染者 81例)うち喀痰塗抹陽性 87例】
- ・ 三類:細菌性赤痢(フレキシネル(B群)) 1例【1月以降の累積報告数 1例】
- ・ 三類:腸チフス 1例【1月以降の累積報告数 2例】
- ・ 五類:ウイルス性肝炎(B型) 1例【1月以降の累積報告数 3例】(第41週追加報告分)
- ・ 五類:ジアルジア症 1例【1月以降の累積報告数 2例】(第41週追加報告分)

定点把握の主な感染症

(市内定点数 インフルエンザ定点68, 小児科定点41, 眼科定点10, 基幹定点1)

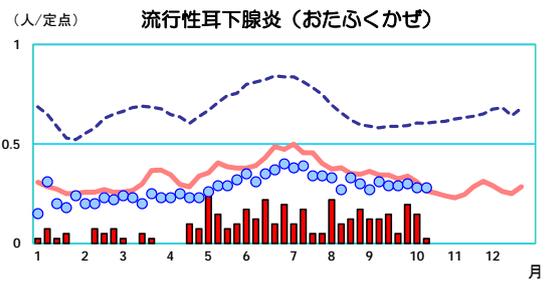
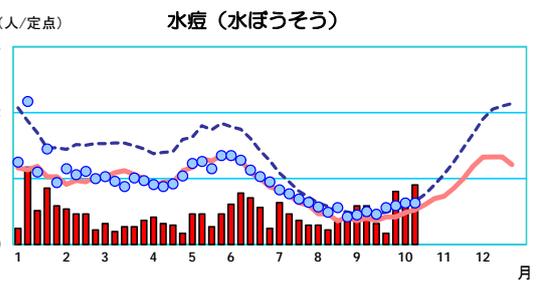
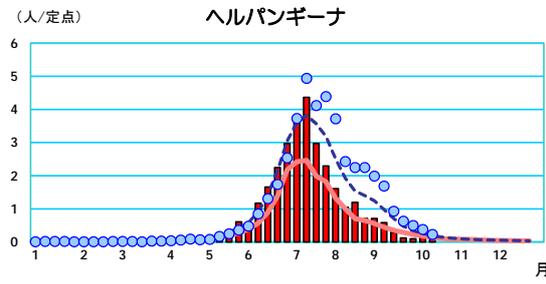
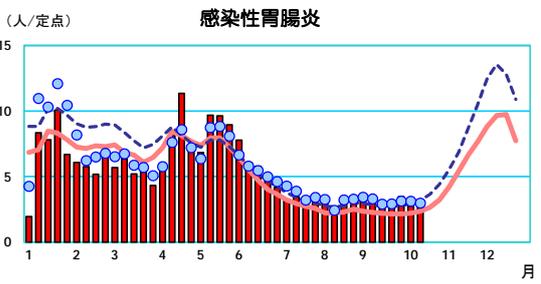
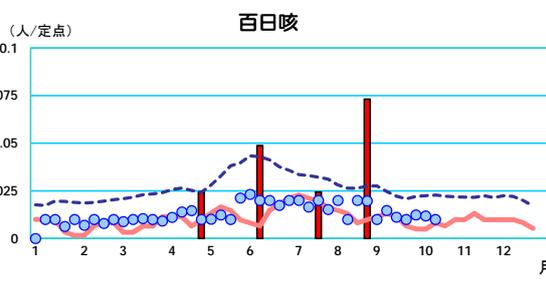
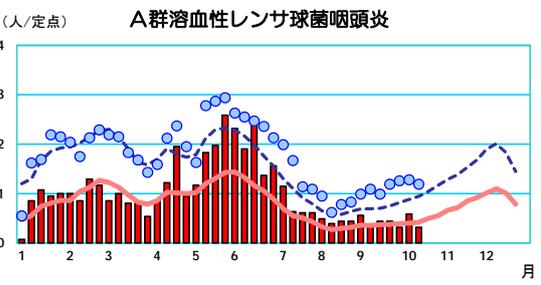
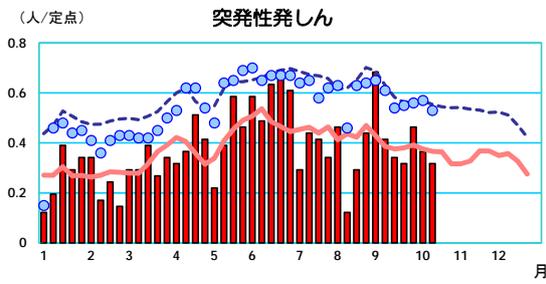
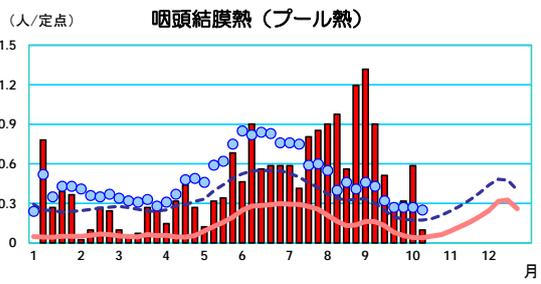
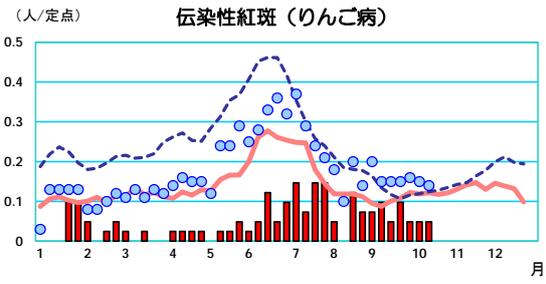
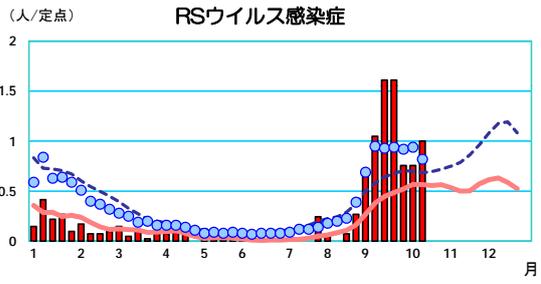
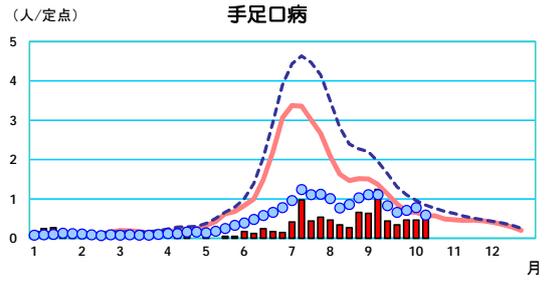
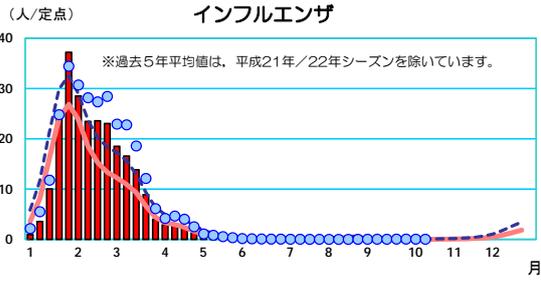
定点	感染症名	定点当たり報告数	報告数
インフルエンザ*	インフルエンザ	0.00	0
小児科 (降順5位まで)	① 感染性胃腸炎	3.00	123
	② RSウイルス感染症	1.00	41
	③ 水痘	0.90	37
	④ 手足口病	0.56	23
	⑤ A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.32	13
	⑤ 突発性発しん	0.32	13
眼科	流行性角結膜炎	0.90	9

【次ページ以降の主な内容】

発生状況の概況グラフ / 今週のトピックス: <RSウイルス感染症>

(注)京都市のデータは, 平成26年10月23日現在の報告数で, 全国の還元データと若干異なる場合があります。
また, 本情報での患者数は, 届出医療機関所在地での集計で, 患者の住所を示すものではありません。

インフルエンザ及び小児感染症の疾病別推移グラフ（平成26年）

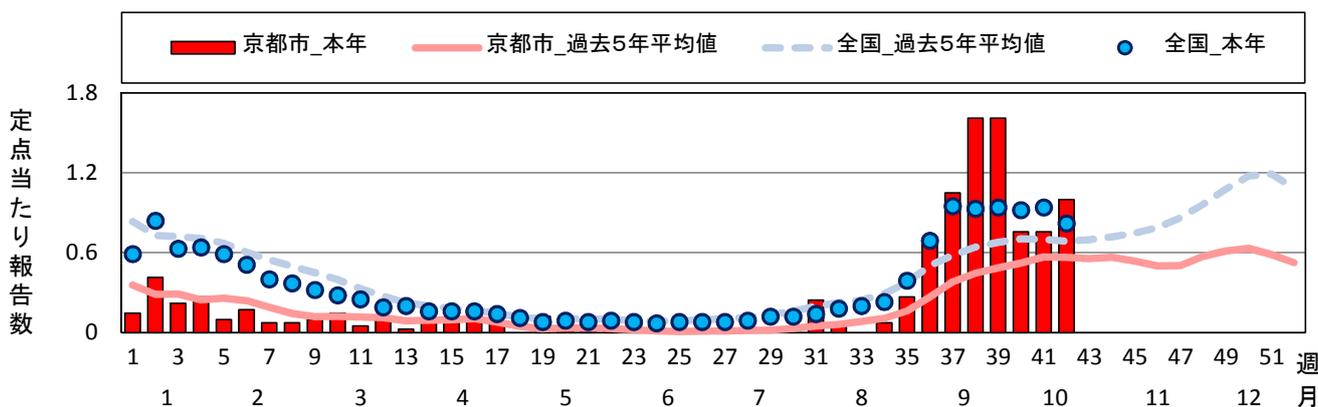


第42週(10月13日～10月19日)トピックス: <RSウイルス感染症>

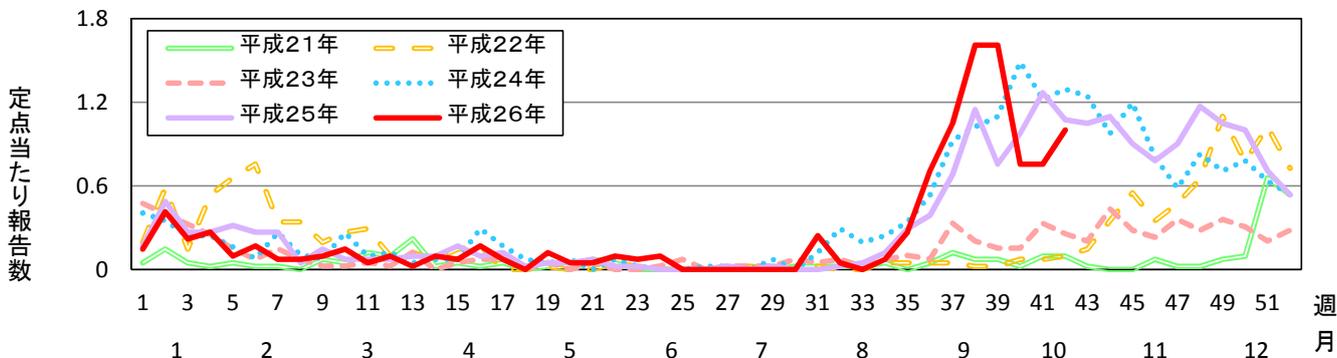
RSウイルス感染症の定点当たり報告数は1.00(41例)で、先週と比べて1.3倍増加し、過去5年平均値を上回っています。平成22年までは秋から冬にかけて流行していましたが、平成23年以降、3年連続して夏頃から報告数が増加しています。本年も第34週(8月18日～8月24日)以降増加し、いったん減少したものの今週再度増加しており、引き続き今後の動向に注意が必要です。全国的に見ても今週は、47都道府県中18道府県で前週より増加しています。

RSウイルス感染症の感染経路は飛沫感染と接触感染で、発症者の多くは0歳児と1歳児です。咳等の呼吸器症状を認める年長児や成人は、可能な限り0歳児と1歳児との接触を避けることが、乳幼児の発症予防に繋がります。また、日常的に接する人はRSウイルス感染症の流行時期はもちろんのこと、流行時期でなくても咳等の呼吸器症状がある場合は、飛沫感染対策としてマスクを着用して接することが大切です。接触感染対策としては、子どもたちが日常的に触れるおもちゃ、手すり等をこまめにアルコールや塩素系の消毒剤等で消毒し、流水・石鹸による手洗いまたはアルコール製剤による手指衛生の励行を行います。

京都市及び全国の定点当たり報告数の推移



京都市の定点当たり報告数の推移



都道府県別定点当たり報告数の推移

